年度 2008　学期 前期	曜日・校時　金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義／(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 403・201・中部講堂	
対象学生(クラス等) D16 K25		科目分類 共通基礎科目	

担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー

富永義則/Eメールアドレス:ytomi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2748 /オフィスアワー:金曜日 13:00-15:00 教員研究室

石松隆和/Eメールアドレス:ishi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2508 /オフィスアワー:月3校時

山口恭弘/Eメールアドレス:ayutrap@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2808 /オフィスアワー:12:00-13:00,V時間目

谷川昌幸/Eメールアドレス:tanigawa@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部/TEL:819-2308 /オフィスアワー:午後

担当教員(オムニバス科目等)	

授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標

授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち，平和を支え，社会に貢献する人材となることを期待する。

授業方法　:特別講演形式と講義形式の両建てにより行い，特別講演は学長，理事，名誉教授などが担当する。講義は，「長崎」3回、長崎「安全・安心」1回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。

授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ，ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により，学生生活の場である長崎の歴史，文化，自然を理解し，長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し，世界を理解する。被爆地長崎を通して平和について学び，平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。さらに，古来より，大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。アジアとの関係を含め，長崎の歴史，文化，平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)

授業内容(概要)

長崎: 第1回　シーボルト来日の意味、シーボルトの処方箋から見えるもの
第2回　化学技術の開祖上野彦馬について
第3回　衛生学の父長与専斎について

長崎（安全・安心）: 長崎に暮らす高齢者や障害者の生活の現状を眺め、安全安心のためになにが必要かについて述べる。

海洋と文化: 漁業は海洋に生息する野生生物を持続的に捕獲することで経済活動を行う産業であり、海洋生態系を高度に利用した食糧生産技術といえる。この時直接生物を捕獲する手段が漁具である。漁具は陸上生物であるヒトが容易に手にすることの出来ない水生生物の行動・習性を巧みに利用した人智の結晶であり、現存する漁具は食糧生産技術であると同時に文化そのものと位置づけることが出来る。また、漁業生産は漁村集落での重要な経済基盤となっており、漁業の存在が地域文化の継承に重要な役割を果たしている。特に半島、島嶼が点在し、閉鎖湾や黒潮が還流する広大な陸棚を西方にもつ長崎県は、我が国の漁業生産地域の一縮図でもある。本講義では以上を考慮し、漁業そのものが自然に働きかける「生きた文化」であると位置づけ、長崎県を切り口として「海洋と文化」について考える。

第1回　漁村集落での古来文化と漁業技術の接点。
第2回　ヒト、天然資源の利用から漁業技術へ。
第3回　長崎の海洋ならびに漁業の特徴。

毎回の講義で「受講シート」を配付し講義の理解度確認ならびに疑問点・要望について問いかけると同時に学生による記載内容は受講態度として点数化して評価の一部とする。

平和:　グローバル化は国境ばかりか，軍隊と警察，戦争と平和の区別を曖昧にしてしまった。この授業では，この変化を説明した上で，現代における平和実現のためには何が必要かについて考察する。①近代の消極的平和，②グローバル化と積極的平和，③途上国における平和構築。

第1回　4月11日　特別講演Ⅰ　齋藤　寛（学　長）
第2回　4月18日　長　崎　富永義則（環境科学部）
第3回　4月25日　長　崎　富永義則（環境科学部）
第4回　5月 2日　長　崎　富永義則（環境科学部）
第5回　5月 9日　長崎(安全・安心)　石松隆和(工学部)
第6回　5月16日　特別講演Ⅱ　田北　徹（名誉教授）
第7回　5月23日　海洋と文化　山口恭弘（水産学部）
第8回　5月30日　海洋と文化　山口恭弘（水産学部）
第9回　6月 6日　海洋と文化　山口恭弘（水産学部）

第10回　6月13日　特別講演Ⅲ　辻　芳郎（名誉教授） 第11回　6月20日　特別講演Ⅳ　山野誠之（名誉教授） 第12回　6月27日　平　　和　谷川昌幸（教育学部） 第13回　7月　4日　平　　和　谷川昌幸（教育学部） 第14回　7月11日　平　　和　谷川昌幸（教育学部） 第15回　7月18日　特別講演Ⅴ　福永博俊（教育担当理事）	
キーワード	長崎：シーボルト，古写真，衛生学の父 長崎（安全・安心）：高齢者、地域、福祉、共生 平和：グローバル化，積極的平和，平和構築，途上国
教科書・教材・参考書	長崎：(参考図書)「出島の科学」および「出島のくすり」を参考にする。九州大学出版会。 長崎（安全・安心）：なし 海洋と文化： 魚食文化：肉食文化と魚食文化(長崎福三、人間選書 183、農文協) 現代魚食考（成瀬宇平、丸善ライブラリー109） 漁具漁法：日本の漁業と漁法（金田禎之、成山堂） 平和：ネグリ＝ハート『マルチチュード』上・下，NHK出版，2005 藤原・岡本（編）『グローバル時代の平和学』第1～4巻，法律文化社，2004
成績評価の方法・基準等	長崎27点、長崎（安全・安心）９点、平和27点、海洋と文化27点、特別講演10点の配点とする。 長崎：レポートの内容（60％）と授業への参加状況（40％）を考慮して評価 長崎（安全・安心）：レポート 平和：3回目授業時に試験実施（27点） 海洋と文化：レポート
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ/学習・教育目標	海洋と文化：漁業という海洋から生まれた文化についてヒトと道具との関わりの原点を学び体系的に説明できるようになる。
備考(準備学習等)	海洋と文化：どのような形でもよいので「海」、「海岸」、「釣」、「漁業」などに触れておくことが望ましい。